

研究ノート

## 本学介護福祉士養成課程における実習指導の検討 —本学保育士養成課程の実習指導と比較して—

服部 優子・福田 洋子  
中川 千代・武藤 敦士  
戸川 俊・長谷川恭子

### はじめに

厚生労働省社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門員会は2018年2月に介護福祉士養成課程のカリキュラムの見直しを行い、2021年度までに順次新カリキュラムが導入されることとなった。その中では、介護過程の実践力の向上やチームマネジメント能力の育成が強調され、介護福祉士にはチームリーダーとしての役割が求められるとしている。そして介護福祉士養成カリキュラムの中核となる介護実習においては、教育に含むべき事項として、「介護過程の実践的展開」「多職種協働の実践」「地域における生活支援の実践」が挙げられている。今後、この教育内容の見直しに沿って、本学の介護福祉士養成カリキュラムの改訂を行うことになる。

さて、実習についての介護福祉士養成課程と保育士養成課程の現行の規定の違いについては別稿（長谷川、戸川、千草、2019）で詳述しているが、ここでは本学における両課程の実習指導の具体的特徴を比較検討し、今後の介護実習の教育内容見直しの参考としたい。

### I. 両課程の実習指導の現状

本学の介護福祉士養成課程と保育士養成課程の実習指導の現状を以下に述べる。結果は表1にまとめた通りである。

#### 1. 実習の段階と時期、関連科目

介護実習は1年前期の8月に「介護実習Ⅰ」として90時間（10日間）、1年後期の2月～3月に「介護実習Ⅱ」として180時間（20日間）、2年前期の8月～9月に「介護実習Ⅲ」として180時間（20日間）と3つの段階に分けて行われている。カリキュラムの関連科目はそれぞれの実習の時期にあわせ「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」で実習の心構えや目的、目標、計画の立て方、必要書類準備の指導を行っている。

保育実習も3つの段階に分けられている。こちらは1年後期の2月に「保育実習Ⅰ（保育所）」として80時間（10日間）、2年前期の6月に「保育実習Ⅰ（施設）」として90時間（宿泊9日間、通い10日間）、2年後期の11月に「保育実習Ⅱ」として80時間（10日間）で行われている。関連科目は「保育実習指導Ⅰ－(1)」、「保育実習指導Ⅰ－(2)」、「保育実習指導Ⅱ」である。

本学介護福祉士養成課程における実習指導の検討

表 1. 本学の介護福祉士養成課程と保育士養成課程の実習指導の比較

		介護福祉士養成課程		
		介護実習Ⅰ	介護実習Ⅱ	介護実習Ⅲ
実習関連科目 (カリキュラム)		介護総合演習Ⅰ	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅲ、介護総合演習Ⅳ
実習時期・時間 (期間)		1年前期(8月)・90時間(10日間)	1年後期(2～3月)・180時間(20日間)	2年前期(8～9月)・180時間(20日間)
実習施設		デイサービス、グループホーム、養護老人ホーム、ケアハウス、介護療養型医療施設等	主に介護実習Ⅲで行う施設(介護実習Ⅰの施設も含む)	特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等
実習の条件	履修科目	介護実習を許可しない条件として、下記の条件を定める。		
	書類提出	該当しない	履修年度の前期科目が3科目以上「不可」の場合は実習を認めない	履修前年度の後期科目が3科目以上「不可」の場合は実習を認めない
	書類提出	介護総合演習Ⅰ～Ⅲにおいて、担当教員が定めた期限内に個人票、実習自己目標、誓約書、評価票、出席簿等の実習書類が提出できない場合は、実習を認めない		
各実習の目標	介護総合演習Ⅰの書類…6月末	介護総合演習Ⅱの書類…12月末	介護総合演習Ⅲの書類…6月末	
	多種多様な介護施設において老いや障害、病をもちながら生活する人の豊かさを知る。施設行事等に参加しながら人の生活をとらえ直し、介護職者の役割の理解を深める。 1. 高齢者、障害者とのコミュニケーション能力を高める。 2. 挨拶など基本的マナーが理解でき、実践できる。 3. 施設の概要が理解でき、実習生としての学びの姿勢が取れる。	介護実践の場において、利用者の個別のニーズに合わせた介護の必要性がわかり、施設のケアプランに基づいた基本的な生活支援を行うことができる。他職種との連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割について知る。 1. 施設のケアプランに基づいた基本的な生活支援を理解でき、支援方法を考えられる。 2. 多職種との連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 3. 実践から学び介護計画が立てられるようになる。	利用者の生活ニーズを理解し、介護を展開する能力を養い、利用者に合わせた生活支援技術が提供できる。既習の知識や技術を統合し、自己の介護観を深める。 1. 利用者の生活課題に着目した介護技術の展開ができるよう、助言のもと実践する中で、その能力を身に付け、利用者に合わせた生活支援技術を学ぶ。 2. その人らしい生活の実現に向けた介護計画を展開するなかで自己の介護観を持つようになる。	
実習に関する記録物	提出すべき実習書類	実習生個人票、実習自己目標、誓約書、実習前施設訪問記録、実習日誌、カンファレンス記録、レクリエーション企画書、実習報告書、自己評価票、評価票、出席簿、	実習生個人票、実習自己目標、誓約書、実習前施設訪問記録、実習日誌、カンファレンス記録(中間・最終)、レクリエーション企画書、介護過程展開シート一式、実習報告書、自己評価票、評価票、出席簿、	実習生個人票、実習自己目標、誓約書、実習前施設訪問記録、実習日誌、カンファレンス記録(中間・最終)、レクリエーション企画書、介護過程展開シート一式、実習報告書、自己評価票、評価票、出席簿、
	実習日誌の内容(実習した日数)	表面…本日の目標、実施項目、本日の目標達成度及び反省(実習中の自分の行動を振り返る、改善点・今後の課題・学ぶべき内容)、実習内容と本日の学び(事実・観察したこと、考えたこと)、明日の目標 裏面…プロセスレコード	表面…本日の目標、実施項目、本日の目標達成度及び反省(実習中の自分の行動を振り返る、改善点・今後の課題・学ぶべき内容)、実習内容と本日の学び(事実・観察したこと、考えたこと、介護過程に関する利用者との試みや進捗状況)、明日の目標 裏面…プロセスレコード	表面…本日の目標、実施項目、本日の目標達成度及び反省(実習中の自分の行動を振り返る、改善点・今後の課題・学ぶべき内容)、実習内容と本日の学び(事実・観察したこと、考えたこと、介護過程に関する利用者との試みや進捗状況)、明日の目標 裏面…プロセスレコード
	介護過程展開シートの内容	なし	【情報収集シート(A3/2種)】:受け持ち利用者についてのICF分類に沿った心身の状況、日常生活活動の状況、参加(豊かさ)、環境因子、個人因子を収集【介護過程展開方法シート(A3)】:収集した情報を分析し課題を明確化させ、その人に合った目標を設定し介護内容を考案したうえでできるだけ実施につなげる。	【情報収集シート(A3/2種)】:受け持ち利用者についてのICF分類に沿った心身の状況、日常生活活動の状況、参加(豊かさ)、環境因子、個人因子を収集【介護過程展開方法シート(A3)】:収集した情報を分析し課題を明確化させ、その人に合った目標を設定し介護内容を考案し実施したうえで、結果を評価する。
事前指導の内容	実習Ⅰの施設の概要、法律等、高齢者や障害者を取り巻く状況について学習する。施設見学を実施し、施設長から施設生活者の状況の説明をうける。施設実習の心構え、実習目標、記録の書き方、プロセスレコードの書き方、各種書類の書き方を学習する。	実習Ⅰの学習を基に、実習Ⅱの施設の概要、法律等、高齢者や障害者を取り巻く状況、施設実習の心構え等、記録の書き方等を再学習する。実習Ⅰの課題を基に実習Ⅱの目標を立案する。個別援助計画の立て方、シートの書き方について学習する。変則勤務、夜間業務について学習する。	実習Ⅰ・Ⅱの学習を基に、実習Ⅲの施設の概要、法律等、高齢者や障害者を取り巻く状況、施設実習の心構え、記録の書き方等を再学習する。実習Ⅰの課題を基に実習Ⅲの目標を立案する。個別援助計画の立て方、シートの書き方について学習する。変則勤務、夜間業務について学習する。	
事後指導の内容	実習Ⅰの振り返りをレポート提出し、介護総合演習の授業で、実習の振り返りを発表する。教員から発表内容に対して指導・助言を受ける。施設からの評価結果と自己評価から個別指導を行う。	実習Ⅱの振り返りをレポート提出し、介護総合演習の授業で、実習の振り返りを発表する。教員から発表内容に対して指導・助言を受ける。施設からの評価結果と自己評価から個別指導を行う。	実習Ⅲの振り返りをレポート提出し、介護総合演習の授業で、実習の振り返りを発表する。教員から発表内容に対して指導・助言を受ける。施設からの評価結果と自己評価から個別指導を行う。	
訪問指導の内容	健康状態の確認。施設の指導に学生が応えられているかの確認。学生の疑問点や不安に対する助言。施設側の意見要望を聴き取り学生指導に反映させる。介護過程の進捗状況に応じた個別指導及び施設側との連絡調整。カンファレンスの準備・当日の進行の確認。実習日誌の指導。レクリエーション企画の確認。	健康状態の確認。施設の指導に学生が応えられているかの確認。学生の疑問点や不安に対する助言。施設側の意見要望の聴き取り学生指導に反映させる。介護過程の進捗状況に応じた個別指導及び施設側との連絡調整。カンファレンスの準備・当日の進行の確認。実習日誌の指導。レクリエーション企画の確認。	健康状態の確認。施設の指導に学生が応えられているかの確認。学生の疑問点や不安に対する助言。施設側の意見要望の聴き取り学生指導に反映させる。介護過程の進捗状況に応じた個別指導及び施設側との連絡調整。カンファレンスの準備・当日の進行の確認。実習日誌の指導。レクリエーション企画の確認。	
評価の方法	介護福祉士養成施設協会編集の評価票による評価+教員による総合評価	実習指導者によるルーブリック評価票検討中+教員による総合評価	実習指導者によるルーブリック評価票による評価+教員による総合評価	

保育士養成課程		
保育実習Ⅰ（保育所）	保育実習Ⅰ（施設）	保育実習Ⅱ
保育実習指導Ⅰ－（１）	保育実習指導Ⅰ－（２）	保育実習指導Ⅱ
1年後期（2月）・80時間（10日間）	2年前期（6月）・90時間（宿泊9日間、通い10日間）	2年後期（11月）・80時間（10日間）
公立及び私立の保育所、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センターなどの児童福祉施設や児童相談所の一時保護所、障害者支援施設	公立及び私立の保育所、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園
保育実習を許可しない条件として、下記の条件を定める。 保育士資格に必須の科目が3科目以上不可の場合。		
「実習にあたって」「事前訪問報告書」の提出が、どちらか一方でも期限より遅れた場合は不可となり、実習を認めない		
担当教員より適宜指示		
1 保育所または施設の機能・保育内容・園生活の流れについて、実践を通して理解する。 2 乳幼児と関わる中で一人ひとりを理解し、援助・指導の在り方を体験的に学ぶ。 3 保育士の専門性に触れながら保育士の職務内容及び役割、チームワークなどを把握し、体験を通して保育への関心を高める。 4 保育士や乳幼児と生活を共にし関わる中で保育技術を習得しながら将来の保育士としての自覚を高める。	1.施設の概要・機能について実践を通して理解し、社会的養護の実際について学ぶ。 2.子ども（利用者）一人ひとりを理解しながら、援助・支援の在り方を体験的に学ぶ。 3.施設保育士の専門性に触れながら、職務内容・役割・チームワークなどを把握し、施設養護及び養護内容への関心を高める。 4.施設保育士や子ども（利用者）と生活を共にする中で、養護技術を習得しながら将来の保育士としての自覚を高める。	1 保育実習Ⅰの学びを活かして、保育所保育の基本を理解する 2 乳幼児が自発的な活動を行うための環境構成及び援助の在り方を学ぶ。 3 個性・特徴を理解した上で、計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。 4 家庭や地域と連携を図りながら、保育に携わる保育所の実態に触れる。 5 修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、保育士としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・児童観を持つようになる。
実習日誌、指導計画案、実習にあたって、事前訪問報告書、実習生個人票、腸内細菌検査結果、保育実習（保育所）出欠表、誓約書、保育所（園）の概要、オリエンテーション記録、実習終了報告書、保育実習（保育所）評価票	実習日誌、実習にあたって、事前訪問報告書、実習生個人票、腸内細菌検査結果、保育実習（施設）出欠表、誓約書、児童福祉施設等の概要、オリエンテーション記録、実習終了報告書、保育実習（施設）評価票	実習日誌、指導計画案、実習にあたって、事前訪問報告書、実習生個人票、腸内細菌検査結果、保育実習（保育所）出欠表、誓約書、保育所（園）の概要、オリエンテーション記録、実習終了報告書、保育実習（保育所）評価票
1ページ目…実習実施クラスの組名、年齢、男女の人数、欠席者、指導者名、子どもの姿、本日の活動、ねらい 1～3ページ目…実習実施クラスの1日の流れ（時間、環境構成、子どもの活動、保育者の援助・留意点） 4ページ目…本日の実習で学んだことあるいは感想など	表面…本日の実習計画・目標、担当グループ、利用者（子ども）の生活・行動とそれに対する保育者の援助・留意点を時系列に記録する 裏面…当日の実習で学んだこと、あるいは感想など	1ページ目…実習実施クラスの組名、年齢、男女の人数、欠席者、指導者名、子どもの姿、本日の活動、ねらい 1～3ページ目…実習実施クラスの1日の流れ（時間、環境構成、子どもの活動、保育者の援助・留意点） 4ページ目…本日の実習で学んだことあるいは感想など
なし	なし	なし
保育所での実習に向けての日誌や指導案の書き方、模擬保育を通して子どもの関わり方や保育の仕方について学ぶ	実習における各自の学習内容や課題の明確化と既習内容を実践につなげる方法・必要な手続き等を学ぶ	最後の実習として、これまでの実習での反省や改善を踏まえた指導案の立案、模擬保育を通して実践的保育技術を学ぶ
なし ※保育実習Ⅰ（施設）終了後に一括して行う。	事後指導では保育士を目指す者として実習体験の振り返りから得られた学習課題を明確にする	最後の実習を終えての反省点、自己評価を行い、これまでの実習や学びを通して理想の保育者像を明確にする。
健康状態の確認、保育所での指導を実習生が正しく理解できているかの確認、学生に対しての疑問を行うほか、保育所から大学に対する意見や要望を聞き取り、指導に反映している	健康状態の確認、施設の指導を実習生が正しく理解しているかの確認、学生の疑問などへの回答を行うほか、施設から大学に対する意見や要望を聞き取り、指導に反映している	健康状態の確認、保育所での指導を実習生が正しく理解できているかの確認、学生に対しての疑問を行うほか、保育所から大学に対する意見や要望を聞き取り、指導に反映している
実習園（施設）の実習評価（70％）、実習日誌・実習終了報告書（30％）	実習園（施設）の実習評価（70％）、実習日誌・実習終了報告書（30％）	実習園（施設）の実習評価（70％）、実習日誌・実習終了報告書（30％）

## 2. 実習実施の条件

本学の介護実習では履修科目において履修年度の前期科目が3科目以上「不可」の場合は「介護実習Ⅱ」、履修前年度の後期科目が3科目以上「不可」の場合は「介護実習Ⅲ」の実施を認めない。「介護実習Ⅰ」については履修科目においての条件は該当しない。また、書類提出においては「介護総合演習Ⅰ～Ⅲ」で担当教員が定めた期日内に個人票、実習自己目標、誓約書、評価票、出席簿等の実習書類が提出できない場合は実習を認めない。これは、「介護実習Ⅰ～Ⅲ」共通である。提出期限については表1参照。

保育実習では履修科目においては保育士資格に必須の科目が3科目以上「不可」の場合、実習を認めない。書類提出においては「実習にあたって」「事前訪問報告書」の提出が、どちらか一方でも期限より遅れた場合は「不可」となり、実習を認めない。提出期限については担当教員より適宜指示される。

## 3. 各実習の目標

「介護実習Ⅰ」の目標は、多種多様な介護施設において老いや障害、病を持ちながら生活する人の豊かさを知ること。施設行事等に参加しながら人の生活をとらえ直し、介護福祉士の役割の理解を深めることである。具体的には、①高齢者、障害者とのコミュニケーション能力を高める。②挨拶など基本的マナーが理解でき、実践できる。③施設の概要が理解でき、実習生としての学びの姿勢が取れる。以上を目標としている。

「介護実習Ⅱ」の目標は、介護実践の場において、利用者の個別のニーズに合わせた介護の必要性がわかり、施設のケアプランに基づいた基本的生活支援を行うことができること。他職種との連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割について知ることである。具体的には、①施設のケアプランに基づいた基本的生活支援を理解でき、支援方法を考えられる。②他職種との連携を通じ、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。③実践から学び介護計画が立てられるようになる。以上を目標としている。

「介護実習Ⅲ」の目標は、利用者の生活ニーズを理解し、介護過程を展開する能力を養い、利用者に合わせた生活支援技術が提供できること。既習の知識や技術を統合し、自己の介護観を深めることである。具体的には、①利用者の生活課題に着目した介護技術の展開ができるよう、助言のもと実践する中でその能力を身につけ、利用者に合わせた生活支援技術を学ぶ。②その人らしい生活の実現に向けた介護計画を展開する中で自己の介護観を持つようになる。以上を目標としている。

「保育実習Ⅰ（保育所）」の目標は次の通りである。①保育所または施設の機能・保育内容・園生活の流れについて、実践を通して理解する。②乳幼児と関わる中で一人ひとりを理解し、援助・指導の在り方を体験的に学ぶ。③保育士の専門性に触れながら保育士の職務内容及び役割、チームワークなどを把握し、体験を通して保育への関心を高める。④保育士や乳幼児と生活を共にし、関わる中で保育技術を習得しながら将来の保育士としての

自覚を高める。以上を目標としている。

「保育実習Ⅰ（施設）」の目標は、①施設の概要・機能について実践を通して理解し、社会的養護の実際について学ぶ。②子ども（利用者）一人ひとりを理解しながら、援助・支援の在り方を体験的に学ぶ。③施設保育士の専門性に触れながら、職務内容・役割・チームワークなどを把握し、施設養護及び養護内容への関心を高める。④施設保育士や子ども（利用者）と生活を共にする中で、養護技術を習得しながら将来の保育士としての自覚を高める。以上を目標としている。

「保育実習Ⅱ」の目標は次の通りである。①保育実習Ⅰの学びを活かして、保育所保育の基本を理解する。②乳幼児が自発的な活動を行うための環境構成及び援助の在り方を学ぶ。③個性・特徴を理解した上で、計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。④家庭や地域と連携を図りながら、保育に携わる保育所の実態に触れる。⑤習得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、保育士としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・児童観を持つようになる。以上を目標としている。

#### 4. 実習に関する記録物

##### (1) 提出すべき実習書類

「介護実習Ⅰ～Ⅲ」では共通して実習生個人票、実習自己目標、誓約書、実習前施設訪問記録、実習日誌、カンファレンス記録、レクリエーション企画書、実習報告書、自己評価票、評価票、出席簿を提出する。「介護実習Ⅱ、Ⅲ」ではこれに介護過程展開シート一式が追加される。

「保育実習Ⅰ、Ⅱ」では共通して、実習日誌、指導計画案、実習にあたって、事前訪問報告書、実習生個人票、腸内細菌検査結果、保育実習出欠表、誓約書、保育所（園）の概要、オリエンテーション記録、実習終了報告書、保育実習評価票を提出する。

##### (2) 実習日誌の内容（実習した日数分）

「介護実習Ⅰ～Ⅲ」の共通内容は、本日の目標、実施項目、本日の目標達成度及び反省（実習中の自分の行動を振り返る、改善点・今後の課題・学ぶべき内容）、実習内容と本日の学び（事実・観察したこと、考えたこと）、明日の目標、プロセスレコードである。「介護実習Ⅱ、Ⅲ」に追加される内容は、介護過程に関する利用者との試みや進捗状況である。

「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅱ」の共通内容は、実習実施クラスの組名、年齢、男女の人数、欠席者、指導者名、子どもの姿、本日の活動、ねらい、実習実施クラスの1日の流れ（時間、環境構成、子どもの活動、保育者の援助・留意点）、本日の実習で学んだことあるいは感想などである。

「保育実習Ⅰ（施設）」の内容は、本日の実習計画・目標、担当グループ、利用者（子ども）の生活・行動とそれに対する保育者の援助・留意点を時系列に記録、当日の実習で学んだこと、あるいは感想などである。

### (3) 介護過程展開シートの内容（「介護実習Ⅱ、Ⅲ」のみ）

「介護実習Ⅱ」では、情報収集シートを用いて受け持ち利用者についてのICF分類に沿った心身の状況、日常生活活動の状況、参加（豊かさ）、環境因子、個人因子を収集する。その後介護過程展開方法シートを用いて収集した情報を分析し課題を明確化させ、その人に合った目標を設定し介護内容を考案したうえでできるだけ実施につなげる。「介護実習Ⅲ」では、情報収集シートを用いた情報収集は実習Ⅱと同じであるが、その後介護過程展開方法シートを用いて収集した情報を分析し課題を明確化させ、その人に合った目標を設定し介護内容を考案し実施したうえ、結果を評価する。

## 5. 事前指導の内容

介護実習では、「介護実習Ⅰ」で対象施設の概要、法律等、高齢者や障害者を取り巻く状況について学習する。施設見学を実施し、施設長から施設生活者の状況の説明をうける。施設実習の心構え、実習目標、記録の書き方、プロセスレコードの書き方、各種書類の書き方を学習する。

「介護実習Ⅱ、Ⅲ」では前段階での実習での学習をもとに対象施設の概要、法律等、高齢者や障害者を取り巻く状況、施設実習の心構え等、記録の書き方等を再学習する。前回の実習での課題をもとに今回の目標を立案する。個別援助計画の立て方、シートの書き方について学習する。変則勤務、夜間業務についても学習する。

「保育実習Ⅰ（保育所）」では、保育所での実習に向けての日誌や指導案の書き方、模擬保育を通して子どもの関わり方や保育の仕方について学ぶ。その後の「保育実習Ⅰ（施設）」では実習における各自の学習内容や課題の明確化と既習内容を実践につなげる方法・必要な手続き等を学び、「保育実習Ⅱ」で最後の実習として、これまでの実習での反省や改善を踏まえた指導案の立案、模擬保育を通して実践的保育技術を学ぶ。

## 6. 訪問指導の内容

実習中教員は施設を巡回し施設との連携と学生の指導にあたる。「介護実習Ⅰ～Ⅲ」共通で週1回以上の巡回を行い、学生の健康状態の確認、施設の指導に学生が応えられているかの確認、学生の疑問点や不安に対する助言を行っている。施設側の意見要望も聴き取り学生指導に反映させている。カンファレンスの準備・当日の進行の確認、実習日誌の指導、レクリエーション企画の確認も行っている。「介護実習Ⅱ、Ⅲ」では、これに介護過程の進捗状況に応じた個別指導及び施設側との連絡調整が加わる。

「保育実習Ⅰ、Ⅱ」では共通して期間中1回以上巡回し、健康状態の確認、施設の指導を実習生が正しく理解しているかの確認、学生の疑問などへの回答を行うほか、施設から大学に対する意見や要望を聴き取り指導に反映している。

## 7. 事後指導の内容

「介護実習Ⅰ～Ⅲ」共通に、実習終了後学生は実習での振り返りをレポート提出し、「介護総合演習」の授業で発表する。教員から発表内容に対して指導・助言を受ける。その後施設からの評価結果と自己評価から個別指導を行っている。

「保育実習Ⅰ」の事後指導は保育所と施設の実習が全て終了した後に、統括して行っている。保育士を目指す者として実習体験の振り返りから得られた学習課題を明確にする事を目的としている。「保育実習Ⅱ」では最後の実習を終えての反省点、自己評価を行い、これまでの実習や学びを通して理想の保育者像を明確にしている。

## 8. 評価の方法

「介護実習Ⅰ」では介護福祉士養成施設協会編集の評価票による評価及び教員による総合評価を行っている。「介護実習Ⅱ、Ⅲ」では実習指導者によるルーブリック評価票を検討中である。施設からの評価の根拠をより具体的に可視化させた状態で教員による総合評価を行う予定である。

「保育実習Ⅰ、Ⅱ」では実習園（施設）の実習評価（70%）、実習日誌・実習終了報告書（30%）によって判断している。

## II. 本学の介護実習指導の特徴

本学の介護福祉士養成課程においては、「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」定める「イの実習」と「ロの実習」について、次のように分けて実施している。すなわち、「介護実習Ⅰ」は「イの実習」、「介護実習Ⅱ」は主に「ロの実習」、「介護実習Ⅲ」は「ロの実習」を行っている。各実習の特徴は以下の通りである。

### 1. 「介護実習Ⅰ」

「介護実習Ⅰ」の主な実習施設はデイサービス、グループホーム、養護老人ホーム、ケアハウス、介護療養型医療施設等である。

事前実習指導においては、実習期間前に担当教員が学生の資料を持参し指導者と面談、実習の事前打ち合わせを行う。教員の訪問後、学生が実習前訪問を行い指導者からのオリエンテーションを受け、事前学習や意識付けを行う。また「介護総合演習Ⅰ」では施設見学を実施し、他科目外で施設関係者による事前説明会を開いて実習へのイメージ作りと意識付けを行っている。

実習では施設の「日勤」の時間帯で利用者の生活環境や日常生活を観察しながらコミュニケーションをとり、介護福祉士及び指導者と共に行動し日常生活援助技術の提供方法を学ぶ。季節の行事やレクリエーション企画等にも参加し、進行の工夫や利用者の普段とは違った様子も学んでいる。実習最終週にカンファレンスを設定し、施設側出席者（施設長、管理者、実習指導者、介護主任、フロアリーダーなど）、担当教員、学生が集まり学生主体

で実習の振り返りを行う。

実習終了後の出校日に提出物の確認整理作業とお礼状作成を行う。また、後日学内で施設の実習指導者、教員で実習反省会を行っている。本学からは実習前の指導内容、学生の実習前、実習後の変化、実習振り返りによる学生の困りごと、実習評価について発表、施設からは実習中の学生の様子、実習日誌記録内容や提出状況、遅刻、欠席、体調管理についての報告や気づきを述べ、情報の共有と連携をとっている。

## 2. 「介護実習Ⅱ」

「介護実習Ⅱ」の主な実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設、デイサービス（1～2日）等で行われる。

「介護実習Ⅱ」の時点から受け持ち利用者を選定し、ICF分類に沿った心身の状況、日常生活活動の状況、参加（豊かさ）、環境因子、個人因子を収集し、その情報を分析し課題を明確化させ、その人に合った目標を設定し介護内容を考案した上、できるだけ実施につなげるよう取り組ませている。入居型施設での実習のため、可能な範囲内で変則勤務や夜勤業務の体験ができるよう実習時間を設定してもらっている。「介護実習Ⅲ」での学びがより深まり利用者との関わりが充実したものにできるよう、「介護実習Ⅱ」であえて介護計画を立案するだけでなく実施・評価できるところまで体験させている。また、出校日を実習時間外で実習中間日頃に設定し、介護過程の進捗状況に応じた個別指導やグループでの意見交換等を行っている。

カンファレンスは実習施設を会場に実習中間時点と最終週の2回行い、施設側出席者（施設長、管理者、実習指導者、介護主任、フロアリーダーなど）、担当教員、学生が集まり学生主体で実習の振り返りを行う。

## 3. 「介護実習Ⅲ」

「介護実習Ⅲ」の主な実習施設は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、重症心身障害児・者施設である。

実習の具体的内容としては、以下のことが挙げられる。①事前訪問または初日にオリエンテーションを受ける。②「日勤」の時間帯で実習を展開するが、施設の受け入れが可能であれば「時差勤務」や「夜勤」実習を行う。③夜勤実習ができない場合は、指導者に利用者の夜間援助の説明を受ける。④利用者1名を受け持ち、介護計画の立案、実施、評価をする。⑤技術の提供においては、安全・安楽に配慮し計画性をもって実施する。⑥チームカンファレンス（ケースカンファレンス）に参加する。指導者と共にカンファレンスに参加し、利用者のケアプランが作成・評価される過程を見学する。⑦指導者の支援のもと、1回以上、行事の企画運営を実施する。⑧他職種（生活指導員・栄養士・医師・看護師・PT・OT・ケアマネージャーなど）の活動の見学、または役割についての説明を受ける。⑨居宅介護サービスに参加する。⑩教員は学生の学習状況に合わせ思考整理の時間設定を行

い、効果的な学習を促す。⑪中間カンファレンスや最終週に最終カンファレンスを開催し、グループ間での学びを共有化することなどである。

提出書類の様式は、三重県介護福祉士養成施設協議会が、作成している実習ノートの様式を基に本学で加筆・修正を加えたものを使用している。評価票においては、平成30年度よりルーブリック評価票を採用し、学生の学びの可視化を図った。実習提出書類は、実習終了後に教員が確認し実習施設にお礼の手紙とともに提出する。

介護実習は、実習施設と介護福祉士養成施設が実習生の自主性・主体性を尊重しつつ、実習開始前から実習終了後をとおして実習に必要な情報の共有を図るために、密接な連携が必要となる。相互の情報の共有等により、本学にとっては実習における実践と実習前後の教育を連動させることができ、より質の高い教育を行うことが可能となる。

### III. 本学の保育実習指導の特徴

本学子ども学科では保育士資格取得希望者に対し、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長付け「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（一部改正 雇児発 0331 第29号 平成27年3月31日）に基づき、保育実習指導及び保育実習を実施している。なお、本学において児童福祉施設等保育所以外の施設で実習を行う「保育実習Ⅲ」は、カリキュラム上設置しているが、現在は運用上閉講としている。また、1年生の5月に全員が高田保育園と高田幼稚園に各々半日ずつ見学に訪れ、保育の様子を直接学ぶ機会を授業とは別に設けている。各実習の特徴は以下のとおりである。

#### 1. 「保育実習Ⅰ（保育所）」

本学の「保育実習Ⅰ」は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」にあるように、保育所と居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の2種類の実習を行うことで保育実習Ⅰの単位が認められる。本学の保育所での実習は、1年生の2月に実施され、公立及び私立の保育所もしくは幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園で実習を行っている。実習では、「保育所の目的、保育士の職務、乳幼児の発達などを理解することにより、実習の目的や意義」、「実習の心構えや望ましい実習態度」、「実習終了後に、実習を振り返ることにより、実習の成果と今後に向けての課題を認識すること」をねらいとしている。また、実習先の保育所の保育内容、機能、園生活の流れを実践を通じて理解し、補助的な立場で乳幼児と遊びを通じて一人ひとりを理解することを学ぶ科目となっている。さらに乳幼児一人ひとりの発達の実情やその実情に対する保育者の援助や指導の在り方を体験的に学ぶのである。実習の期間としては、おおよそ10日間の実習であるため、観察や参加実習の他に絵本の読み聞かせや短時間の活動を学生が主担当となり行う部分実習を実施する場合もある。その際は、どのような保育を行うのかについて事前に把握できるために「指導案」という企画書を事前に作成し、担当保育者と学生が打ち合わせを行ったうえで実施することとしている。

それらを踏まえ「保育実習Ⅰ（保育所）」の事前指導として、「保育実習指導Ⅰ－(1)」の

科目を設置している。ちなみに、「保育実習指導Ⅰ－(2)」は「保育実習Ⅰ」内に含まれる居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の事前指導である。「保育実習指導Ⅰ－(1)」では、保育所で実習を行う上での意義や目的、内容を理解し、自己課題を明確化すること、実習における観察・記録・実践の方法及び心構えを理解すること、実習後の統括及び自己評価を通して、新たな課題を明確化することを目標としている。授業内容としては、実際に保育所にあるデイリープログラムをもとに日誌の書き方を学ぶ。そして、部分実習を行う際の指導案の書き方などについてグループワークを通じて理解を深める取り組みを行っている。また、実際に絵本の読み聞かせについての指導案を作成し、学生を子どもと見たて模擬保育を行うことを行っている。

## 2. 「保育実習Ⅰ（施設）」

本学の「保育実習Ⅰ」のうち居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習は、2年生の6月に乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センターなどの児童福祉施設や児童相談所の一時保護所、障害者支援施設で実施している。実習は施設の役割・機能や当事者の理解を目標に、施設の受け入れ態勢に応じて宿泊型の実習では9日間、通所型の実習では10日間、主に観察実習や部分実習を行っている。

実習先の多くは当事者が入所し生活している場であることから、支援の視点や方法は保育所における保育実習や幼稚園における教育実習とは大きく異なる。各施設の支援対象は施設種別に応じて乳児から高齢化した障害者まで多岐にわたる。学生の多くは保育所保育士や幼稚園教諭を目指して入学してくることから施設に対する理解は浅く、実習の様子を想像しながら事前学習を行うことは困難な状態にある。そこで、各自が実習先の支援対象を的確にとらえ、各施設での実習の準備を十分に行えるように、実習指導が始まる2年前期ではなく、実習担当教員が行う1年生後期の児童福祉関連科目の講義を活用し、早期より図1のような取り組みを行っている。

### 1年生(後期)

10月上旬 各施設概要説明、各自施設見学等実施  
↓  
11月下旬 実習希望施設アンケート  
↓  
12月中旬 実習先配置調整  
↓  
1月下旬 実習先発表、「実習にあたって」作成指導  
↓  
1月～3月 各自が自主的に実習先を訪問し、見学や自主的な実習活動を実施する

### 2年生(前期)

4月(事前指導)  
↓ 施設実習の意義、目的  
↓ 各種施設の役割、機能、法的根拠  
↓ 各種施設の職員配置状況  
↓ 施設利用者の現状と課題  
↓ 当事者のとらえ方  
↓ 実習日誌の記入方法  
↓ 実習中の注意事項に関する確認  
↓ 事前訪問(5月)  
6月 実習実施  
↓  
6月末(事後指導)  
実習の振り返り  
質疑応答  
各種アンケートの実施

図1. 本学における保育実習Ⅰ（施設）への取組

以上の取り組みにより、施設の役割・機能や当事者に対する学生の理解が進んだだけでなく、実習先の選定における学生の主体性も向上し、実習に対する学生の不安軽減にもつながった。さらに、この取り組みにより施設保育士を志望する学生も増加し、近年では定員の1割程度が児童福祉施設や障害者支援施設に就職している。

### 3. 「保育実習Ⅱ」

「保育実習Ⅱ」は「保育実習Ⅰ」の単位を取得した後に行う選択必修の科目である。本学の「保育実習Ⅱ」の実施期間は2年生の11月に設定しており、「保育実習Ⅰ（保育所）」と同じくおよそ10日間行われる。なお、前途で触れたように本学では現在「保育実習Ⅲ」は閉講としているため、本学で保育士資格を取得希望の学生であれば「保育実習Ⅱ」は全員が受講する科目である。

本学の「保育実習Ⅱ」は在学中最後の実習として設定されているため、これまで学んできたことを振り返りながら現場で実践する科目として位置づけられている。そのため「保育実習Ⅰ」と比べ、より実践的な取り組みが求められる科目であると考えられる。また実習内容も「保育実習Ⅰ」で行ってきた、観察、参加、部分実習に加え、1日もしくは半日間、担当するクラスの担任の代わりとして行う責任実習を行うことも「保育実習Ⅱ」では含まれてくる。そのため事前指導として設定されている「保育実習指導Ⅱ」では、これまでの実習で感じられた反省や改善を振り返りながら模擬保育を行っている。模擬保育では、保育所で行う保育を想定し、30分間の設定保育を行う指導案の作成を行う。そして各自作成してきた指導案をグループに分かれ、代表の指導案を決め模擬保育の実施を行っている。

## IV. まとめ

本学の介護福祉士養成課程と保育士養成課程の実習指導について比較検討を行った。介護実習は450時間、保育実習は250時間と実習時間数に差があるが、両課程ともによりよい実習での学びにつなげるための目標や指導の工夫が盛り込まれていることが再認識できた。

「保育実習Ⅰ（施設）」に関しては、学生が配置される施設の役割や機能に違いがあり、事前の準備学習（実習指導）にかかる期間の工夫や実習先訪問を早期に行うことで、学生の主体性の向上や実習に対する不安の軽減につながっている。この点は今後介護実習においても検討したい。また、実習に関する記録物の比較表からは両課程の実習とも「提出すべき記録物」が日々の実習日誌以外に多岐にわたることが明らかになった。今後、学生の実習効果を高めるために提出書類の内容を精査し、必要な項目を増減させることも検討課題である。保育実習での実習日誌、指導計画案等の内容について介護福祉士養成課程の教員が学ぶことで、介護実習での実習日誌、プロセスレコード、レクリエーション企画書等の内容の充実やスリム化を図ることにつなげたい。また「保育実習Ⅱ」の特徴にある模擬保育

の実施に関しては、実践的な演習を通して学生の学びや気づきを引き出す効果があると考えられる。介護実習の関連科目の中で取り入れることにより、学生に介護現場や利用者との関わりをより具体的にイメージさせることができるかと期待できる。さらに、保育士養成課程では、1年生の5月に全員が連携している保育園に授業外で見学に行くことを年間行事として設定している。これは、介護福祉士養成課程においても入学後早い時期に連携施設を訪れ、介護のイメージを明確にした上で実習や授業に繋げていけるので、年間行事として明記していきたい。

保育実習にはないが介護実習で行われているカンファレンスをより効果的に行うための検討も必要である。現在は学生主体で進行されているカンファレンスの持ち方について、「介護実習Ⅰ」では教員が司会進行して学生が気づきや学びをしっかり報告し振り返りができるよう導き、指導者の的確な助言が受けられるよう進行の手本を示す方法もひとつである。最後の実習「介護実習Ⅲ」では学生主体で円滑な進行ができるよう、段階的に指導を行いカンファレンスの目的や学ばせたい内容にあったスタイルを創っていくことが求められる。また評価の方法として「介護実習Ⅱ、Ⅲ」ではルーブリック評価票を使用している。実習指導者による評価を具体的な評価項目から可視化させ、根拠を明確にすることで学生の視点からもどこが課題であるかがわかりやすく、振り返りが明確になることをねらいとしている。留学生を含む本学の学生一人ひとりに対応した指導ツールとして活用できるよう、今後も検討が必要である。これを機会に本学の保育士養成課程の教員、介護福祉士養成課程の教員が情報交換・連携を行い、実習指導や実習のあり方、記録物、施設との連携など双方の良いところを参考にしながら、より良い養成教育を構築していきたい。

## おわりに

本学の介護実習は「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」の定める「ロの実習」について「介護実習Ⅱ」でも主に配置していることから、ほとんどの学生が全体の5分の4を「ロの実習」に充てている。今後は三重県内で「ロの実習」にあたる施設の占める割合がどの程度あるのか、三重県内の他の養成施設や他県の養成施設は「ロの実習」を450時間のなかでどう位置づけているのかについても調査したい。実習施設での実習の質を高めるため、どんな施設を選定するのか、カンファレンスの充実（教員側でできる工夫）、各実習指導者の実質的な施設内での職種や実習生との関わり方の濃淡についても詳細を把握し、いずれは本学だけでなく他の養成施設との情報交換、連携にもつなげていきたい。

## 付 記

本稿執筆に当たり、高田短期大学介護福祉研究センター長の千草篤磨教授に御指導頂きました。記して感謝申し上げます。

## 文 献

- ・長谷川恭子、戸川 俊、千草篤磨 2019 介護福祉士養成課程及び保育士養成課程における実習の規定について 高田短期大学介護・福祉研究 第5号 33-41
- ・三重県介護福祉士養成施設協議会 2017 三重県版介護実習の手引き 介護実習ノート
- ・大豆生田啓友・三谷大紀 2018 最新保育資料集 ミネルヴァ書房
- ・社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事制度研究会 2018 新訂・社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集 第一法規
- ・高田短期大学子ども学科 2010 教育・保育・施設実習の心得